

「日本の文化」における茶道実習を中心とした 感性育成教育の取り組み

川守田 礼 子*

Kansei Development Educational Process in “Japanese Culture” Program with a Focus on Tea Ceremony Practice

Reiko KAWAMORITA*

Abstract

The Tea Ceremony is a traditional Japanese art that has a long history with deep philosophical roots and reflects the very core of the Japanese spirit and soul. “Japanese Culture” is a unique program of the Department of Kansei Design in Hachinohe Institute of Technology, mainly focusing on practical experience of “Tea Ceremony”. In this brief paper, we will report the outline of the educational process and its successful result.

Keywords: Japanese Culture, Tea Ceremony, Kansei Design

1. はじめに

「日本の文化」は、感性デザイン学科の専門基礎科目に位置づけられ、2年前期に開講されている科目である。感性デザイン学科開設当初より重視されている体験型感性育成教育を推進する科目のひとつとして、日本の代表的な伝統文化「茶道」を体験する実習を中心とした、感性デザイン学科独自のプログラムを展開している。本稿では、「日本の文化」におけるこれまでの取り組みを総括し、その成果について報告する。

2. 目的と背景

平成17年度に開設された感性デザイン学部感性デザイン学科は、感性デザインを「人を理解し、思いやり、その心を創造的に伝えること」と定義し、「コミュニケーション」「創造・表現」

「福祉・健康・暮らし」を三つの柱として教育を実践してきた。上記の三つの柱に関わる豊かな感性の育成は、本学科の重要な課題のひとつといえてよい。よって、感性デザイン学科では、開設当初より感性育成を目的とした体験型教育を重視し、積極的に推進してきた。

「日本の文化」も、上記の方針にのっとり、日本文化を体験的に学ぶことを目的として、「茶道」を中心に据え実施することとした。「茶道」には、伝統的な生活に対する考え方や作法、さらには人間関係のあり方や生活美術などが集約されており、「和の総合芸術」と称される。日本の伝統文化に関して総括的に学ぶのに大変適している。また、感性デザイン学科では、「学外研修」として、アメリカ Wesley 大学を中心とした海外研修という教育プログラムを2年次に実施している。本学科の体験型教育プログラムとして最も大規模なものである。「日本の文化」は、その直前に実施される科目であることから、海外研修での異文化交流における大きな効果が期待された。海外でも「茶道」の認知度が高いこ

平成20年12月15日受理

* 感性デザイン学科・講師

とから、本科目での茶道実習を核とした授業内容が決定した。

3. 授業内容

(1) 授業の流れおよび評価

以下に、平成20年度「日本の文化」のシラバスを挙げる。評価は、茶道論文を含めたレポート、および、各実習での活動状況により行う。

授業回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2-3回	礼法実習①：立居振舞の作法
第4-5回	礼法実習②：道具の拝見
第6-7回	茶道実習①：客の作法
第8-9回	茶道実習②：もてなしの心（茶花の実践）
第10-11回	茶道実習③：盆略手前
第12-14回	茶会実習：南部会館での総合茶会開催
第15回	茶道論文の作成・提出

(2) 指導体制

礼法および茶道の指導は、非常勤講師として、裏千家教授、小向宗美先生とその社中の方々にご担当いただいた。今年度は、受講者数が多いことから、感性デザイン学科3年生にボランティアとしてサポートに加わってもらった。実習は、実習室のスペースの関係上、数グループに分割してローテーション方式で実施した。これは、茶会の主催者である亭主と、招かれて茶を頂く客、水屋での茶菓の準備およびお運びをする係といった茶道における役割を順番に体験する上で、有効であった。

(3) 実習施設

茶道および礼法の実習は、実際の和室での実施が望ましい。感性デザイン学科では、平成19年度に組み立て設置式の茶室コーナーを導入し、畳の上での実習が実現した。現代家屋では、床の間や襖、日本間そのものの設置が減少して

いると聞く。身近に和室が存在しても、それらをしつらえや作法の観点からじっくり捉え直す機会は少ない。特にその傾向は若い年代に顕著である。茶室コーナーは、現在、感性デザイン学科棟2階K203に設置され(写真1参照)、空間としての和室の魅力を発見しつつ、伝統的な身体作法を体験的に学べる貴重な施設として、本科目を中心とした諸行事で活用されている。



写真1 K203の茶室コーナー

(4) 実習内容

実習は、和室での所作の基本となる立居振舞を知る「礼法実習」から始め、段階的に茶道の基本を学び、最後の「茶会実習」で総括するという流れで構成されている。慣れない正座や初めての茶室への入室作法に、当初は戸惑う学生も見られたが、日常生活や机上の学習では得られない緊張感を伴う体験が新鮮な印象を与えたようである。小向先生はじめサポートの先生方が、一人ひとり丁寧にご指導くださったおかげである。招く側の心構えを学ぶ実習では、床の間に飾る茶花を全員が活けるという体験を通して、コミュニケーションを楽しむための空間づくりに、どのように心を配り、自分なりの工夫を凝らすかについて学ぶことができた。また、後半の盆略手前実習や茶会実習では、茶会のすべての役割を学生自らが担当し、主体的に活動した。写真2～7は、実習での活動風景である。

「日本の文化」における茶道実習を中心とした感性育成教育の取り組み（川守田）



写真2 真行草の礼を学ぶ



写真5 盆略手前を体験する



写真3 茶花を活ける



写真6 南部会館での茶会体験実習①



写真4 客をもてなす



写真7 南部会館での茶会体験実習②



写真8 学生による御点前披露



写真10 お茶を楽しまれるお客様方



写真9 御運び担当の学生たち



写真11 茶道を体験する Wesley 大学学生

4. 主体的活動への展開

(1) アメリカ Wesley 大学記念茶会開催

平成19年6月17日から27日までの11日間、感性デザイン2学年全学生48名を含む57名の学生が参加し、アメリカでの海外研修が実施された。コミュニケーション能力育成、異文化理解、芸術鑑賞を目的として、姉妹校の Wesley 大学、および、ワシントン、ニューヨークを訪問した。

特に、Wesley 大学では、本科目で茶道を学んだことを生かし、日本文化の一端を紹介しつつ異文化交流を図る目的で、記念茶会が開催された。地元ドーバー市の市長、Wesley 大学学長ほか ESL クラスの担当教員を招き、茶道を体験

していただいた。本茶会はすべて感性デザイン学科現3学年有志学生の企画によるもので、出発1ヶ月前より精力的に準備に取り組んだ。当日は司会担当の学生が英語による解説を行い、厳粛な雰囲気のもと御点前が披露された。地元メディアの注目を集め、翌日の新聞に掲載された。客として列席した Wesley 大学学長より、「緊張感のある感動を味わうことができた」との高い評価をいただいた。茶会終了後は、Wesley 大学の学生も参加し、実際に茶を点てる体験をしてもらった。自分で茶道を体験するだけではなく、自国の文化として「伝える」という活動を行うことは、異文化コミュニケーションの上で大変有意義であったと思われる。写真8～11は、記念茶会の模様である。

(2) 学園祭茶会開催

茶道実習での体験は、茶道愛好会結成という学生の自主的活動に発展した。平成 19 年・20 年と学園祭において茶会を開催し、多くの来場者に茶道を楽しむ場を提供した。その成果として、今年度は展示部門で学長賞を受賞することができた。学生たちの努力と創意工夫の賜物である。写真 12～14 は、学園祭茶会の模様である。

5. 成果と展望

以上のように、本科目では茶道実習を中心とした体験型教育を実践してきた。以下に、今年度の受講生の感想レポートをいくつか紹介する。

- (1) 正客を初めて体験し、とても緊張したが楽しかった。先生にお点前を誉めていただいたのが嬉しかった。
- (2) 思っていた通り一つ一つの動作が難しく、慣れないことの連続で戸惑ったが、日本の文化を身につけて日本人としての誇りを持ち、日々生きていこうと誓った。
- (3) 今日のお茶会はとても楽しかった。お茶を点てるのはやっぱり楽しい。お茶には場を華やかに楽しくする力があると思った。
- (4) 今回の茶道実習は日常生活では体験することのない貴重な体験となった。現在は昔に比べて礼儀を忘れた社会になってしまっている。この授業で経験したことを活かしていきたい。
- (5) 今日はおもてなし時の心を学べたと思う。相手を思いやる気持ちを持つということが一番大事であるということを再認識した。

以上のように、本科目における学習成果と実習内容への満足度がともに高いことがわかる。今後は、内容や指導体制をさらに工夫し、学生



写真 12 平成 19 年度学園祭茶会 (KD プラザ)



写真 13 平成 20 年度学園祭茶会 (K203 教室)



写真 14 学園祭展示表彰

にとって実りの多い科目となるようにしたい。特に、次年度から感性デザイン学科は「ビジュアルデザインコース」「住環境デザインコース」の 2 コース制を敷き、デザイン教育重視の方向

に向かう。本科目においても、従来の実習内容に加え、日本の伝統文化への理解に根ざした新しい和 문화の創造・デザイン、および、その効果的な発信につながるような何らかのプログラムを新たに設定したいと考えている。また、学園祭茶会での成功を基盤に、入学式・卒業式での呈茶など、諸行事での活動の範囲をさらに拡大していけるように努力していきたい。

謝 辞

最後に、茶道実習をご指導くださいました小向宗美先生はじめ社中の皆様、および、Wesley 大学記念茶会開催にご協力くださった本学引率担当の先生方、茶室コーナー設置にあたりご協力いただいた学内外の皆様に、改めて感謝申し上げます。